

1.3. 市の着工建築物の特徴

本市の着工建築物の件数は、平成13年度以降、2,500件／年前後で推移しており、その多くが主に一戸建てと考えられる木造建築物が占めています。

本市の着工建築物の床面積は、総数でみると激しく増減していますが、主に一戸建てと考えられる木造建築物をみると概ね20万㎡／年前後で横ばい傾向にあり、主に一戸建てと考えられる木造建築物の供給が安定的に推移していると考えられます。

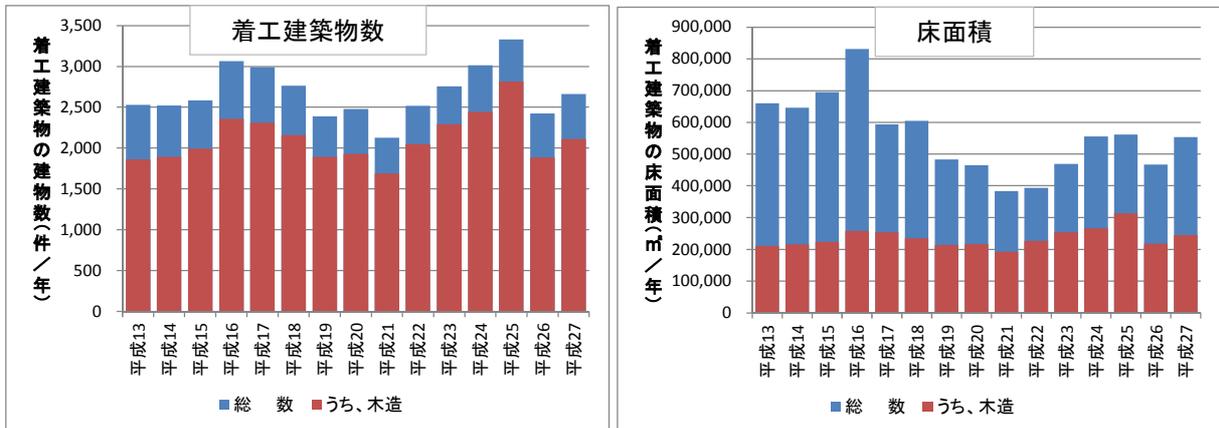


図 川口市の着工建築物の件数および床面積の推移

資料：川口市統計書^{※1} (2017年5月)

全国、埼玉県の前着工建築物床面積の推移を伸び率（平成13年度を1とした場合）で比較すると、着工建築物（総数）の床面積では全国と同程度で埼玉県よりも低い水準で推移しているものの、木造建築物の床面積は全国・埼玉県を上回る伸び率で推移しています。

以上のことから、東京都区部に近接し、交通や生活の利便性が高い本市においては、先に整理した平成17年から平成27年における堅調な人口増加と、一戸建てを中心とする住宅供給^{※2}が連動しながら、他地域に比べて高い水準で推移していると考えられます。

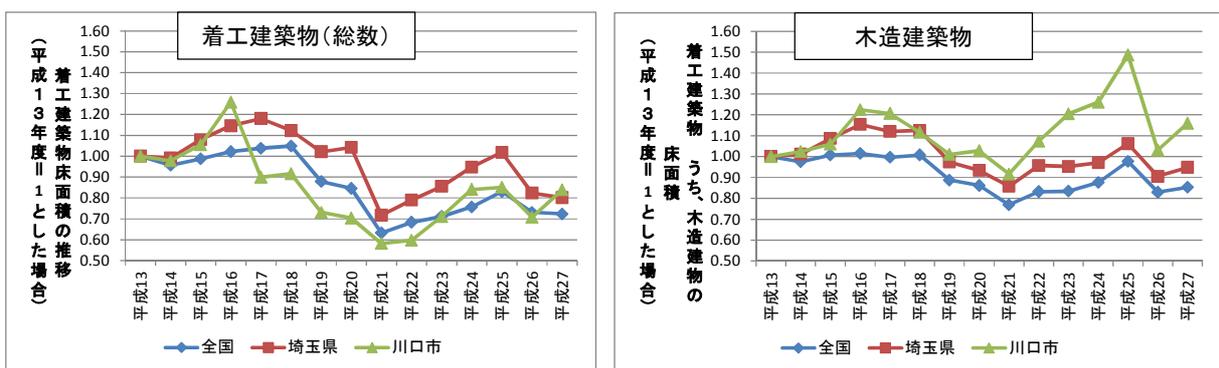


図 全国・埼玉県・川口市の着工建築物の床面積の推移

資料：全国・埼玉県は建築着工統計調査報告（国土交通省）、川口市は川口市統計書^{※1} (2017年5月)

※1：合併前の旧鳩ヶ谷市分の実績を含まない。

※2：建築着工統計調査報告（国土交通省）において、平成28年度の埼玉県の木造建築物の床面積379.5万㎡のうち、住居専用住宅の床面積が359.6万㎡であり、埼玉県の木造建築物の床面積のうち住居専用住宅が約95%を占めることから、木造建築物は一戸建てを中心とする住宅供給と考えられます。